

# オープンサイエンスの論点整理

## (2/3)

- オープン化のインセンティブ(分野別型)
  - 研究成果再利用による迅速化
  - 論文化
  - Vo (Virtual Observatory)/Materials Informatics
  - フィールドサイエンス
  - 研究リソース獲得(例: 東寺百合文書WEB、萬曆版大藏經画像データベース)
- オープン化のインセンティブ(分野横断型)
  - 学際性(例: 古文書+土木データ▶▶地震  
ヒット化合物ライブラリー+創薬スクリーニング▶▶創薬)
  - 社会実装(例: 公的統計+Webデータ▶▶都市計画)

# オープンサイエンスの論点整理

## (3/3)

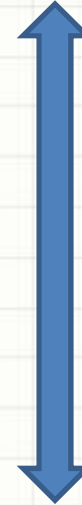
- オープンサイエンスのコスト
  - データ生産コスト
  - データ流通コスト
  - 流通のための標準化にかかる研究者の負担
  - 保存方法(現物(wet data)+デジタルデータ(dry data))
  
- ▶▶活用とバランスのとれたコストか？

# オープンサイエンス分野別俯瞰

- ホールデータ共有型

- 大型施設などの使用でデータ生産が高コスト
- アウトカムは人類の叡智あるいは環境への貢献
- データを共有、解析プログラムなどは個別ポリシー
- オープンポリシーは占有期間(embargo)あるいは論文化  
ex.天文学

オープン化大



- ブリッジングデータ共有型

- データ解析結果の商用性・活用性が高い
- メタデータや現物などブリッジングに必要なデータや解析プログラムは公開を目指す。ただし公開は提供者に任せられる。
- オープンポリシーは占有期間(embargo)あるいは論文化、特許化  
ex. 材料、創薬

オープン化小